



# 学校だより



11月号

令和6年10月31日  
横浜市立善部小学校  
校長 朝川 健太郎

## 失敗が成長につながる

校長 朝川 健太郎

10月18日(金)曇り空の中、5年生6年生がZSF(善部スポーツフェスティバル)の前日準備を行いました。翌日の本番に向けて会場準備や応援合戦の最終確認など自分たちの係分担に責任をもって取り組む姿がありました。



その後、夜にかけて降り出した雨も未明には上がり、徐々に晴れ間が広がる中、ZSF本番を迎えました。気温もぐんぐん上がり、10月としては異例の30度近い気温の中、子どもたちは暑さに負けず練習の成果を発揮していました。徒競走やリレーのスタート前の表情や演技を待つ間のまなざしから不安と緊張、そしてやる気など様々な感情が入り乱れている様子がうかがえました。当日の子どもたちの様子を見て、どの子どもも大きなプレッシャーと闘いながら本番を迎えたのだなと感じました。今回、「失敗したらどうしよう」「負けたらどうしよう」というプレッシャーに打ち勝って本番をやり切ったことで子どもたちは大きく成長しました。この経験をこれからの生活に生かしてほしいと思います。

先日、プロ野球で横浜 DeNA ベイスターズがクライマックスシリーズを勝ち抜き、日本シリーズ進出を決めました。試合に臨む選手たちに三浦大輔監督は「ミスは出るかもしれないけどすぐに忘れろ」と伝えたそうです。巨人との最終戦でエラーをした森敬斗選手がその後三塁打を打ったのも、この意識の表れだったのではないのでしょうか。私たちも日々生活をしてる中でミスは起こります。ミスをしたときは落ち込むものですが、いつまでも落ち込んで他のことが手に付かないよりは、反省しつつもすぐに切り替えて次に向かうほうが良い結果を生みます。ミスをしたことで同じようなミスをしないうつ注意深くなり、ミスは減ります。そういった意味では、ミスをしたことで成長したと言えるでしょう。

子どもたちの中には、失敗を恐れて積極的になれなかったり、自分の意見を言えなかったりする子もいます。そんな時に周りの大人が、「失敗するかもしれないけど大丈夫。それが成長につながるから失敗を恐れるな。」と言ってあげられれば子どもたちは安心して取り組めるのではないのでしょうか。三浦監督はこうも言っています。「いかにポジティブな気持ちでグラウンドに立てるか。立たせられるか。」子どもたちが何事にもポジティブな気持ちで取り組めるかどうかは、私たち大人の声かけ次第ではないのでしょうか。「子どもたちがいかにポジティブな気持ちで何事にも取り組めるようにできるか。」を常に意識して声かけをしていきたいものです。

ZSFの開催に向けて、保護者の皆様、地域の皆様のご理解とご協力に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。